

自己評価及び学校関係者評価結果

学校法人旭川カトリック学園 美唄アカシヤ幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教という宗教的な雰囲気の中で、多くの愛に包まれながら伸び伸びと活動し、様々な環境の中で、人格形成の最も大切な時期にはっきりと正しい道德観を持ち、たくさんの経験をしてもらい、幼児の心身を健やかに育成出来るようにする。また、保育者や友達との関わりの中で、自分の言葉で伝えるという行為を大切にする。

「おいのり・しんせつ・がまんの心」をモットーに毎日の祈りを通じて、感謝の気持ちを育み世界の人々にも視野を広げ、自分のことだけではなく、人のために祈りや考えることが出来るような子どもたちを育てていくことを目指す。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

カトリック幼稚園としての意義や幼稚園教育要領について、職員（保育者）全体で理解を深めるために、建学の理念や幼稚園教育要領を学び直す機会を通して、幼稚園教育の質の向上に努めていく。

また、昨年度の反省を踏まえ、子どもたちの確かな成長を援助する環境づくりを考え、そのために職員同士の連携を深めていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目・目標	取組状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	自己評価の結果は4点満点中3.2点で、昨年度比－0.1点となった。特に「指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものにする」「園児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をする」の結果が高かった。一方、「幼稚園教育要領を読み、園長や保育者と話し合い理解に努める」「園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす」の結果が低く、改善が必要である。
2 保育の在り方、 幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	自己評価の結果は4点満点中3.4点で、昨年度比－0.2点となった。特に「園児を無視したり、体罰を加えたりすることはどのような場合であってもしない」「障害又はその疑いのある子を理解し、積極的に関わる（又は補助する）」の結果が高かった。一方、昨年度と同様「個々の園児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する」「園児の年齢及び発達段階に即した援助の仕方を工夫する」の結果がやや低く、改善が必要である。

3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。	自己評価の結果は4点満点中3.6点で、昨年度比－0.1点となった。特に「職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る」「園の重要書類は持ち出さない」「園児の成長を自分の喜びと感じる」の結果が高かった。一方、昨年度と同様「園児の性格や個性を把握し、その子の考えや感じていることを理解する」「保護者に対し、日頃から自分の保育に関する考えや理想をわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める」の結果がやや低く、改善が必要である。
4 保護者への対応及び 家庭との連携 園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。	自己評価の結果は4点満点中3.7点で、昨年度と同じとなった。特に「保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従う」「個々の園児や保護者、家族の情報は口外しない」など、4項目の結果が高かった。また、全ての項目で3.5点を上回っており、園全体で保護者との対応や家庭との連携に真摯に取り組んできたと考えられる。
5 地域社会との連携 地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。	自己評価の結果は4点満点中3.0点で、昨年度比＋0.1点となった。特に「地域の人々と親しくあいさつや会話を交わすように心がける」の結果が高かった。また、本年度は、全職員が域内の小学校の授業参観日に参観するなど、小学校との連携に一步踏み出すことができた。一方、「地域の自然や主な施設の場所、交通機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をする」「子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う」の結果が昨年度と同様に低く、地域社会との関わりについて改善が必要である。
6 研修と研究 研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。	自己評価の結果は4点満点中3.1点で、昨年度比－0.1点となった。特に「研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する」「幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う」の結果が高かった。また、本年度は園内研修として保育相互参観を実施することができた。一方、昨年度と同様「地域社会との交流に関する研修・研究を行う」「預かり保育や子育ての支援について研修する」の結果が低く、改善が必要である。

4. 学校関係者の評価

上記「3」の1～6の各項目について、6名の学校関係者評価委員の皆さんに「良い・普通・改善あり」＋記述で評価していただいた。幼稚園の自己評価の結果を真摯に受け止めて評価していただき、感謝申し上げます。

記述評価として、年々園児数が減少していることに伴い、行事の内容等について見直しが必要なものもあるのではないかとのご意見をいただいた。来年度の行事1つ1つについて、園や子どもの実態を踏まえて計画していく。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1年間の園運営や保育等について自己評価をすることにより、幼稚園全体での本年度の成果として確認できることや、改善に向けて取り組まなければならない課題を明らかにすることができた。また、学校関係者評価を実施したことにより、自己評価結果に客観性をもたせ、今後の各般の取組についての方向性を確認することができた。

6. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
個の理解に基づく援助の在り方	幼児理解に関する計画的な研修や1人1人の園児に焦点を当てた実態把握に努めるとともに、特別な教育的支援が必要な園児への対応を含め、それらに基づく適切な援助の在り方について実践検証を行う。
地域社会との関わりや交流の拡充	地域の自然や施設等について理解するための園外活動を計画的に実施する。また、地域の教育資源を調査し、保育活動に取り入れる可能性を検討する。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽ASG有限責任監査法人(東京)の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間に周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。